

第2学年3・4組男子 保健体育科学習指導案

指導者 香川第一中学校 中村彰夫

1日 時 平成26年10月 9日(木) 第5校時

2 単元名 器械運動(マット運動)

3 単元について

(1)教材観

マット運動は、それぞれの技に取り組み練習することによって、その技ができたときの達成感や喜びを体験することができる運動である。それぞれの技に挑戦していく過程で、その技が「できる・できない」がはっきりとしてくる。そのため、技ができるようになるための努力がしやすい運動でもある。また、自分ができる技を発展させ、技を組み合わせることにより、演技として運動を楽しむことができる。そして、自分ができる技と他の者ができる技をシンクロさせることによって、運動の楽しさの質をさらに高めることができる。

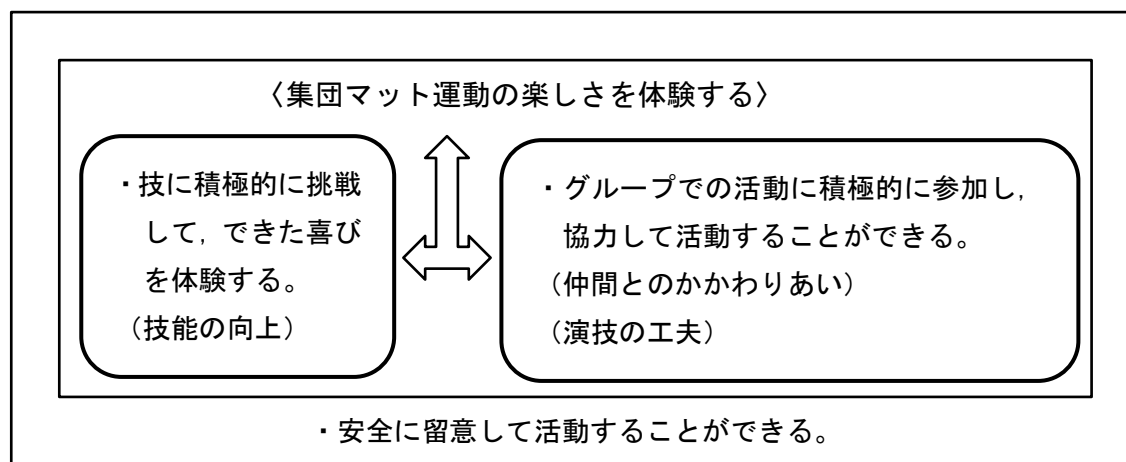
(2)生徒観

このクラスは、男子37名で全体に明るく、体を動かすことが好きな生徒が多い。事前アンケートでは、体育の授業が好きと答えた者は8割であった。一方、マット運動が好きと答えた者は4割であった。マット運動が好きでない理由として「できないから」「失敗して恥ずかしいから」「楽しくないから」という理由が多かった。また、本単元では、グループ活動を中心に行うために、グループ活動で大切だと思うことを質問したところ「協力して行う」「チームワークを大切にする」「他人の意見を大切にする」などの言葉が多く出され、グループ活動を行ううえで大切なことが理解できている生徒が多いこともわかった。このクラスには、特別な支援を要する生徒が1名おり、支援サポーターとともに本人ができる範囲で他の生徒と一緒に活動することになっている。

(3)指導観

1年時には、それぞれの技の学習カードを見て自分で技のポイントを考え、自分で練習してその出来栄を教師に評価してもらった活動を行った。そうすることによって、技が「できた」喜びや達成感を体験することができた。2年時では、今できる技を発展させたり組み合わせたりして、よりスムーズに技ができるようにしたい。グループでの活動を中心に行うことによって、自分ができる技を他の者に教えたり、他の者ができる技を教えてもらったりする活動を行いたい。また、グループで演技を作る過程において、技をシンクロさせる楽しさや、協力して演技を完成させたときの喜びを体験させたい。その際、グループでお互いに話し合ったり、自分たちが行った演技の映像を見て分析や評価したりする活動を多く取り入れたい。

本単元における基礎基本のとらえ



4 単元の目標

- ・授業に積極的に取り組むとともに、他の者が行う上手な演技を認めることができる。
- ・グループ内で分担した役割を果たし、協力して活動を行うことができる。
- ・技をシンクロさせる楽しさを体験し、仲間とのかかわり合いの中で演技を行うことができる。
- ・健康安全に留意し、関連して高まる体力などを理解できる。

5 単元の評価規準

1 関心・意欲・態度	2 運動の思考・判断	3 運動の技能	4 運動の知識
・授業に積極的に参加しようとしている。 ・技ができるようになるために、練習を積極的に行っている。 ・グループ内で分担した役割を果たそうとしている。 ・健康安全に留意して活動している。	・学習内容を理解して、合理的な練習方法を考えている。 ・技のポイントを考え、技の習得に適した練習をしている。 ・仲間のつまづきを指摘したり良い動きを認めたりしている。	・1年時に学習した技を発展させ、一連の動きの中で技を行うことができる。 ・自分のできる技を組み合わせ、一連の動きとして表現できる。 ・相手の動きに応じて、技をシンクロさせることができる。 ・音楽に合わせて、まとまりのある演技を行うことができる。	・技の名前や行い方を理解している。 ・マット運動に関して高まる体力について理解している。 ・安全に練習を行う方法を理解している。

6単元の計画

時間	1	2	3	4	5	本時 6	7	8
学 習 過 程	準備運動 本時のねらい 学習内容の確認							
	オリエンテーション 目標 活動の仕方	〈グループ内で、技を 教え合い発展させる。〉 ・グループを決める。 ・自分のできる技の 練習をする。 ・グループ内で技を 教え合う。 〈グループ内で、できる 技を組み合わせ一連の 動きを作る。〉 ・お互いのできる技を見せ合う。 ・技の動きを考える。 ・技の順序を考える。 ・演技構成図を作る。 ・演技構成図を修正する。 ・音楽に合わせて練習する。					グループごとの発表会 単元のまとめ	
	整理運動 本時のまとめ（自己評価） 次時の確認							

7 本時の学習

(1)目標

- ・自分の技能に応じた技を発展させることができる。
- ・他の者と動きを合わせることにより、一連の動きを作ることができる。
- ・グループで協力して安全に留意して活動することができる。

(2)準備物

- ・個人学習カード
- ・演技構成図
- ・映像遅延装置
- ・テレビモニター
- ・ラジカセ

(3)学習の展開

学習活動	教師の支援 評価（☆）
1 整列してあいさつを行う。	・元気な声であいさつをさせ、気持ちよく授業を始める。
2 準備運動を行う。	☆生徒の表情や態度を観察する。 ・体を十分に動かさせるとともに声を出させて、学習に取り組む意欲を高めさせる。

3 グループごとに集合し、本時の目標や課題を確認する。	・本時の目標をカードで示し、各自が課題を持って学習できるようにする。 ・前時までの学習カードを確認させることにより、今までの学習の振り返りをさせる。
各自のできる技を合わせて、グループでまとまった動きを作ろう	
4 グループごとに練習を行う。 ・技の動きを練習し、順番を確認する。 ・それぞれの技の動きを合わせながら、一連の動きを作る。 ・一連の動きを修正しながら、演技を完成させる。 5 グループごとに整理運動を行う。 6 本時のまとめを行う。 7 あいさつを行う。	・自分のできる技を見せ合うことによって、技を組み合わせるきっかけを作る。 ・他人の技を見てアドバイスを行うことによって、技のポイントを理解させる。 ・自分の課題がはっきりしていない生徒に対しては、映像遅延装置を使い、自分の技を確認させる。 ☆安全に留意して活動を行っているかを観察する。 ・できる技を確認し、技の順番を考えさせる。 ・演技構成図を作り、全体の流れを把握させる。 ・一連の動きを考えるうえで、技と技のタイミングやつながりを意識させるアドバイスを行う。 ☆グループで協力し役割を果たしているか、技が上達しているかを名簿に記入しながら観察する。 ・動きの練習を繰り返しながら、演技構成図を修正していく。 ・話し合いの場を設けて、演技づくりにそれぞれの意見が反映できるようアドバイスを行う。 ・一連の動きができたグループは、音楽に合わせて動きの練習を行わせる。 ・音楽を流してストレッチ体操をさせることによって、心も体もリラックスさせる。 ・学習カードに記入させることによって、本時の成果及び課題を確認させる。 ・本時の活動内容を発表させることによって、全体の流れを確認させる。 ☆学習カードの記入を確認して、本時の学習の様子を確認する。 ・全員を見渡し、健康観察を行う。

